



もうすぐゴール。最後の力を振り絞って走る子どもたち

恒例の「子どもマラソン大会」 寒さに負けずに全力疾走

「第45回子どもマラソン大会」(内子・城廻地区愛護班連絡会他主催)が2月14日、内子小学校周辺のコースで行われました。沿道にはたくさんの観客が集まり、懸命に走る子どもたちに大きな声援を送っていました。5連覇を目指していた松井悠真くん(内子小5年)は、「昨年の大会が終わってから、1年間練習してきた。優勝できてうれしい。来年も頑張る」と笑顔でした。



くす玉を割って1,000万人突破をお祝い

多くの人に愛される道の駅「からり」 レジ通過者が1,000万人突破

内子フレッシュパークからり(土居好弘社長)のレジ通過者が2月16日、1,000万人を突破し、セレモニーが行われました。1,000万人目になった矢藤喜美子さん=鬼北町=には、からり商品券1万円分と内子産の米30㍓が贈られました。土居社長は「4月27日に新しい『からり』がオープンする。さらに多くの人に愛されるように、今後も前に進み続けたい」と意気込みました。



ステージでCMに込めた思いを話す生徒たち

内子町と小田高校の魅力を30秒に 「ふるさとCM大賞」公開審査会

「ふるさとCM大賞えひめ'19」(愛媛朝日テレビ主催)の公開審査会が2月17日、松山市総合コミュニティセンターで開かれました。内子町からは、小田高校で結成された映像制作チームの一つ、「チームU」が参加しました。同校が行っている昼休みの短時間仮眠を、保健委員長の特長能力によるものとして演出。会場の笑いを誘いました。審査会の様子は3月下旬に放送される予定です。



テレビの取材も入り、特別な金婚式に

苦楽を共にした半世紀に乾杯 10組のカップルが「金婚祝賀会」

結婚50年を共に祝う「金婚祝賀会」(内子町社会福祉協議会4分会主催)が2月19日、内子自治センターで開かれました。今年は内子・五城・立川・満穂分会から昭和43年度に結婚した10組が参加。来賓のお祝いの言葉や求道三弦由謡会にの津軽三味線の調べを聞きながら、会食を楽しみました。同協議会の中川稔徳会長は「夫婦で楽しむ姿を見られてよかった」と喜びました。

「土佐ジロー」経営に学ぶ田舎の価値 稼ぐ力のある農業を目指す「知的農村塾」

元気な農業・農村づくりを目指す「第17期(後期)内子町知的農村塾」の第1回講義が1月23日、小田林業センターで開かれました。講師は高知県で「はたやま夢楽」を経営する小松圭子さん。地鶏・土佐ジローに特化した経営で、限界集落といわれる畑山に年間約3,000人が訪れるようになりました。小松さんは「存在価値を磨けば、まだまだ田舎の未来は明るい」と力を込めました。



「村には村の価値がある」と語る小松圭子さん

温水プールでお祭り騒ぎ 笑顔あふれる「ウォーターフェスティバル」

「第9回Ryuowウォーターフェスティバル」が2月3日、フィットネスクラブRyuow(嶋本亮介マネジャー)で開かれ、愛媛県内から多数のスイマーが参加しました。競争ではなく、自己申告のタイムに近づけて泳ぐ大会で、泳ぎに自信のない人も楽しめます。今年は愛媛県出身のお笑い芸人・本多スイミングスクールさんのライブも開催。水泳ネタのコントに、会場からは笑いがあふれていました。



種目の1つ「仮想部門25m自由形」で盛り上がる会場

地球の未来を守ること、考えよう―― 町内の小中学生が環境会議を開催

環境教育を推進する「平成30年度内子町環境子ども会議」(内子町・内子町教育委員会主催)が2月13日、共生館で開かれ、内子町内全ての小・中学校から242人が参加しました。

まず講話があり、気象庁松山気象台の調査官・橋口清さんと田中自信さんが、温暖化が暮らしにもたらす影響などを、分かりやすく解説しました。その後の体験学習では小学生が各ブースに分かれて、マイバッグ作りや竹堆肥作りなどを体験。ツリークライミングに挑戦した永岡虹七さん(五十崎小4)は、「初めての経験で怖かったけれど、てっぺんまで登れた。木の上から見た小田川の景色がきれいで感動した」と目を輝かせていました。

中学生は、風力でLEDライトが点灯する発電装置を作りながら、その仕組みを学びました。講師の今治市立乃万小学校校長の村上圭司さんは「環境保全には、持続可能な社会づくりが不可欠。まずは環境問題に関心を持つことが大切」と説きました。



1_着なくなったTシャツをマイバックにして笑顔 2_初めてのツリークライミングに多くの児童が喜んだ 3_小田深山に自生する珍しい苔などを顕微鏡で観察 4_風力発電装置の組み立てを教える村上さん(右)